

東京国際空港(羽田) 国際線旅客ターミナル

設計:羽田空港国際線PTB設計共同企業体
(梓設計、ペリクラークペリアーキテツツジャパン、
安井建築設計事務所)

新しい“日本の空”の創造

井上龍之介 | Ryunosuke Inoue

2010年10月21日、日本の新しい空の玄関口として「東京国際空港(羽田)国際線旅客ターミナル」が開業した。羽田空港島の中央部にある第1ターミナルを“陸”、東京湾に面した第2ターミナルを“海”と捉え、国際線ターミナル地区を“空”に見立て、かつて日本を訪れた人々が目に焼き付けた富士山、そして雲海の姿のように、風景としての美しさや空との一体感をコンセプトとしている。

旅客ターミナルビルは地上5階建て、延床面積約15万4,000㎡。2階を到着エリア、3階を出発エリアとシンプルに積層させた空間構成は、出発・到着旅客に対して直進性が高く、階層移動の少ない、できる限りスムーズな移動を可能としている。

エアサイド側に迫り上がる大屋根で構成された3階出発ロビーは、旅客ターミナルビルとしては国内最大級の柱スパン18m、極めて少ない鉄骨柱で支持している。こうすることで旅客ターミナルビルを訪れる利用者に開放感や高揚感を与えると同時に、東京のまちをぐるりと見渡せる空間を提供している。このカーブサイドからエアサイドへ伸びる大屋根のカーブは富士山の稜線を、また内部は“重なるすじ雲”をモチーフにした形状としている。

3階出発ロビーに入った正面には、出発ロビーから続く大屋根のもと、日本の歴史、文化、風景などを体験できる商空間(4階、5階)を一体的に計画している。4階エリアは現代の素材で“和”をデザインした「空の庭園」、その奥には江戸のまち並みを再現した「江戸小路」を配置。5階エリアは現代の日本をイメージしており、アニメーションやキャラクターなど、世界的に有名な日本のポップカルチャーを楽しめる空間「TOKYO POP TOWN」を計画している。

エアサイドから見た旅客ターミナルビルは、水平に延びる到着コンコースの中央に大屋根が浮き上がる印象的な外観を演出している。

エコ・エアポートの実現

—地球に優しい建築

環境面では日本の顔にふさわしく、地球に優しい“エコ・エアポート”の実現を目指した。計画では①大気、②騒音・振動、③水、④土壌、⑤廃棄物、⑥エネルギー、⑦自然環境を環境の7要素と定めた「エコ・エアポートガイドライン」に基づき、駐車場や外構まで総合的かつ多岐にわたる環境負荷低減を実施した。今回取り入れた環境技術の中で代表的なものが“地中熱利用”である。年間を通じて15-17℃と安定した地中熱を、夏は冷房、冬は暖房に利用している。また、環境負荷低減に関する目標としてLCCO₂の34%削減などを掲げ「CASBEE Sランク」を取得した。

ユニバーサルデザインの追求

—“使いやすい”、“分かりやすい”の実現に向けて

あらゆる利用者にとって、より優しく、より利用しやすい旅客ターミナルビルを目指すために、法や条例のみに基づいた整備で終わるのではなく、有識者や障がいを持つ方に参加していただくワークショップを開催した。参加者から頂いた意見や要望をもとに、旅客用男女・多機能トイレ、サインなどの実物サンプルや実寸大のモックアップの製作・検証を行い、“利用者の視点での使いやすさ”を徹底的に追求した。既製品では対応できないものに対しては積極的に新たな製品を開発したり、障がいを持つ方々に特化するのではなく、外国人や子どもなどの視点も考慮しながら、既存の考え方にとらわれずに、できる限り柔軟な対応を心がけた計画となっている。

ユニバーサルデザイントイレ

ユニバーサルデザインを追求し、計画したひとつにトイレがある。まずトイレ案内サインでは、従来型の触知図ではなく、男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレの配置とオストメイト機能や着替え台など、トイレ内に設置されている利用者に必要な情報だけを大きく、はっきりとサイン表示した触知マップとした。さまざまな法協議を通し、“本当に使いやすいものは何か”を実現した一例である。

トイレ入り口まわりの壁面は、一部を男子カラー、



女子カラーとすることで入り口を明確化するとともに、時差ぼけなどによる入り間違いの防止に留意している。

一般トイレでは手動車いすを利用する旅客も使える広々とした空間になっている。ブースの扉は内外で色を変え、“使用時”と“未使用時”が一目瞭然となるようにしている。これは「ブースの鍵に付いた開閉表示では分かりにくい」「開閉表示を大きくしてほしい」という視覚障がいの方の意見をもとにデザインしたものである。

今回のトイレ計画で議論を多く交わしたものに「多機能トイレ手動扉」と「可動手すり」がある。どちらも操作性や障がいの違いによる使い方について意見交換を行い、新たに製品



1,2—3階出発ロビー | 3—北西面外観



4—3階女子トイレ | 5,6—同男子トイレ | 7—同多機能トイレ
8—個室の一部にはオストメイトを設置 | 9—4階男子トイレ | 10—突出サインと触知マップ

11—4階「空の庭園」 | 12—江戸のまち並みを再現した4階「江戸小路」



化している。
機能面だけでなく、環境演出面でも旅客ターミナルビルとの一体感に配慮している。内装タイルは、清潔感と快適性をイメージした“白”を基調とし、床タイル・ブース扉（便器側）は各階のテーマカラーを採用。例えば、3階トイレには3階出発ロビーのテーマカラーである“青色”を、4階トイレでは江戸の蔵をイメージした“墨色”を採用している。4階トイレの壁面は他の階と違い、タイルのパターン張りで江戸空間との一体感をより高めた内装としている。
供用1年を経た。利用者の方から「全体的に広くて使いやすい」、「ブースも広く、扉の開

閉がしやすく便利”など、トイレの使い勝手や清潔さ、美しさに対して、高い評価を頂いている。また、ユニバーサルデザインの成果のひとつとして、トイレ入り口のサイン関係もある。入り口には、大きいLED内照式の突出サインと触知マップを設置した。内照式サインは、遠くからでも誰もが視認しやすく、また、必要な情報を可能な限り大きく表示した触知マップも「使いやすい」と好評だと聞く。

いのうえ・りゅうのすけ— 梓設計設計室 有吉スタジオ / 1978年生まれ。2006年、梓設計入社。
主な作品：東京国際空港（羽田）国際線旅客ターミナル[2010]など。

